

育成モノづくり人材

Vol. 42

福岡県立香椎工業高校

福岡県立香椎工業高校は1962年に開校した。快適な教育環境を整えて主体性を尊重し、生徒はモノづくりの技術を磨いている。



泉校長

「自立・協同」の教育理念に基づき「社会に役立つため自分自身がしっかりし、周りと協力する気持ちが大切」と道徳教育に力を入れている。創立50周年の12年度は地元

【DATA】▷校長=泉大介氏▷所在地=福岡市東区▷学科構成=電気科、機械科、工業化学科、情報技術科、電子機械科▷主要設備=マシンングセンター、CNC旋盤、原子吸光分光光度計など▷主な進路=トヨタ自動車、新日鉄住金、安川電機、九電工、西部ガス、西日本鉄道など

がかりで、生徒は意見を出し合い協力し一つの物を作り上げる苦勞や喜びを経験する。毎年、話題性に富んだ作品を完成し、同校名物

丹精込め戦国の鎧兜製作

教育にも注力する。福岡藩ゆかりの黒田官兵衛の鎧兜をテーマに、個以上の穴開け、ハンマーでの打ち出し、鋼線や溶接技術の高さも同校の強み。機械科の生徒が所属する溶接同好会は県内の工業高校で

「他校と比べ快適な環境だからではないか」と話し、学びに集中して移動できる。4月の熊本地震では、生徒の主体性を重視する姿勢が表れた。地震直後から生徒自らが募金活動を実施。その後、生徒と教職員との懇談会で「熊本で支援活動がしたい」という声があがり、7月に47人が現地のボランティア活動に従事した。また「当たり前のことと当たり前にする」と（泉校長）と、出席率も重視する。15年度の出席率は98・7%以上、全生徒の37・8%が皆勤を達成した。（西部・高田圭介）（金曜日に掲載）



同校の伝統となった鎧兜製作

優勝経験もある。そんな技術力の高さつながっている。例えば校舎は教室棟と実習棟が往來しやすく、雨風を受けずに移動できる。4月の熊本地震では、生徒の主体性を重視する姿勢が表れた。地震直後から生徒自らが募金活動を実施。その後、生徒と教職員との懇談会で「熊本で支援活動がしたい」という声があがり、7月に47人が現地のボランティア活動に従事した。また「当たり前のことと当たり前にする」と（泉校長）と、出席率も重視する。15年度の出席率は98・7%以上、全生徒の37・8%が皆勤を達成した。（西部・高田圭介）（金曜日に掲載）